

評価項目 1 教育理念・教育目的・人材育成目標・学校運営

学校法人として認可を受けておおよそ40年。設立から当法人は、「教育は待つこと」を理念としている。大学受験の私塾として発足以来、運営する専修学校の全ての学科はこの理念を具現化したものであり全ての学科にわたって共通して流れる教育姿勢といえる。これらを踏まえ、各学科別の評価項目について下記に記載する。

評価項目	教育理念・教育目的・人材育成目標	学校運営
大学受験科	目指す大学のもうひとつ上のレベルへ目標を定めさせ、次代を担う有能な人材輩出を目指している。医学部進学に特化したコースの設置によりきめ細かい運営も心がけている。	高校現役時代の成績をレベルアップさせ、ワンランク上の大学を目指すこと。医学部進学コースにおいても希望大学への合格を実現すること。また、知識一辺倒ではなく将来の人格形成に資する人間教育も念頭に行っている。
日本語学科	日本語の修得を通じて母国での有能な人材となり得る人間育成を教育目標の根底に据え、一度目標を達成できなくとも再チャレンジできる環境を整えている。	年ごとに企業において即戦力となり得る人材育成が重要性を増しており、大学への進学とともに日本の商習慣や企業文化への理解を高める教育も進めている。
国際教養科	前籍校をドロップアウトした生徒が多くを占める国際教養科は、特に結果を焦らず「待つこと」を常に意識しながら指導にあたっている。近年は、中学卒業後、直接、本学科へ進学する生徒が増加している。	遅れていた基礎学力を定着させるとともに、社会性やコミュニケーションスキルの醸成を大きな目標の柱として進めている。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	福祉医療業界への人材輩出を目指し、高齢化社会の進展の中で求められる社会福祉主事、医療、調剤事務分野での人材養成を使命とした教育を行っている。	専門科目の修得とともに介護施設での実習等も踏まえた教育と、ボランティア活動等への参加で社会経験の実践の場も提供している。
5段階評価	3	4

評価項目 2 教育活動

評価項目	教育活動
	日々の業務への対応に追われ、職員能力開発のための研修に十分な時間を割けない部分もあるが、各部門においては独自で職員間の意思疎通を図り、教育理念や方針に基づいた教育カリキュラムの編成に注力している。現状では、まだ部門を超えた意思疎通がスムーズに流れているとは言い難い。
5段階評価	2

評価項目 3 生徒指導

評価項目	生徒指導
	大学への進学であれ、企業への就職であれ、基本的な規則正しい生活習慣を身に着けていることが目標達成の大前提であるとの考えから、始業前の生徒・学生への連絡等を密にし、定期的に学生寮における生徒・学生の生活実態を把握するために訪問を行い、常に生徒・学生の変化に気づく体制を整えている。
5段階評価	4

評価項目 4 特別活動

評価項目	特別活動
大学受験科	学科間、教職員と学生との関係構築を目的に、それぞれ年度初めに歓迎パーティやスポーツ大会等のレクリエーション活動を実施している。
日本語学科	上記と同様の活動のほか、留学生の出身国へ職員が出向き、保護者との懇談会も始めている。生活や勉学の報告や情報交換を行い信頼関係を強化し学生の勉学意欲の高揚へ繋げている。
国際教養科	上記と同様の活動のほか、文化祭、修学旅行、久留米市の夏祭り等にボランティア活動として参加し社会との交流も積極的に実施。また、生徒の自主的な同好会活動も支援している。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	上記と同様の活動を実施。地域清掃等のボランティア活動にも参加し、社会の一員としての意識付けにも取り組んでいる。
5段階評価	3

評価項目 5 学修成果

評価項目	学修成果
大学受験科	進学率、合格実績は常に安定した高水準を維持している。
日本語学科	進学率、合格実績は安定しているが、今後ますます高まるとされる就職ニーズへの対応が課題と思われる。
国際教養科	高卒資格を取得後、進学や就職を目指す生徒も徐々に増えてきたが、卒業後に目標を持たない生徒も多く継続的課題でもある。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	職員一丸となりほぼ100%の就職及び進学実績を達成してきた。
5段階評価	3

評価項目 6 生徒・学生支援

評価項目	生徒・学生支援
大学受験科	職員室のオープン化や個別指導室の設置等、出入り自由でいつでも相談に対応できる体制を作っている。
日本語学科	学生寮を準備し来日の不安解消を図ると同時にアルバイト確保の支援を行い、生活安心感にも配慮。卒業後の進路も一丸となって進めている。
国際教養科	心身が不安定な生徒も多く、家庭との連携やコミュニケーションを大切にしている。また、社会へ馴染めるようきめ細かな支援を行っている。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	本校は医療福祉分野への就職を前提としている課程で、職員一丸となって支援し、ほぼ100%の就職率を達成、維持している。
総合評価	各学科のほとんどが高等教育機関への進学（一部就職）を目指す教育課程であり、そのための支援体制は十分にはたしていると評価できる。
5段階評価	4

評価項目 7 教育環境

評価項目	教育環境
大学受験科	医学部進学コースの生徒の増加を踏まえ、新校舎の供用を開始。快適で集中できる環境作りを心がけている。
日本語学科	留学生専用校舎にて教職員と留学生がアットホームな環境で学んでいる。
国際教養科	昨年より校舎全体のLED化を図るなど学業環境整備に取り組んでいる。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	学生のインターンシップについても教育内容の特質上、協力施設・団体にて実施。
総合評価	教育の充実を含め、教職員の資質向上のため積極的に外部セミナーや講座への派遣を実施。また、生徒や教職員の安全管理について、学校ごとの防災計画を策定し、役割分担に応じて緊急の対策を講じているところ。年度初めに定期的な啓発、周知を行うことが求められる。
5段階評価	3

評価項目 8 学生募集

評価項目	学生募集
	<p>専修学校久留米ゼミナールの大学受験科は、生徒の出身高校の担当教員との密な情報交換を実施。高校時代と比べて、教科・科目の伸びなど、常にフィードバックを図り、時に現役高校生への講演を通じて、大学受験の心構えや傾向などについて情報提供を行っているところ。日本語学科においては、学生の出身国において、父母との情報交換会を定期的に開催するなど、保護者と学校との連携を強めることで、より効果的な学生指導、学生募集を実現している。また、国際教養科も、中学校や適応指導教室などへの定期的な訪問を通じて、出身生徒の学校での様子をフィードバックしている。</p>
5段階評価	4

評価項目 9 法令等の順守

評価項目	法令等の順守
	<p>学校運営に対する必要な変更が生じた場合には、遅滞なく監督官庁への届け出、報告等を行うよう引き続き努力をしているところ。法人内部においても、最低限知っておくべき法令に関するの通知・通達やレクチャーを実施し更に高い意識を持つよう取り組んでいく。</p> <p>学生等、利用者の個人情報の保護に関しては、法人としての考え方・立場を明確にする方針を基本として、各学科・部門ごとに個人情報の利用目的に関する同意書を作成のうえ運用に心がけている。</p>
5段階評価	3

評価項目 10 社会貢献

評価項目	社会貢献
	<p>○ボランティア活動への積極的な参加</p> <p>国際教養科においては、毎年ボランティア活動として地元久留米市で開催されるイベント等に、主催者・団体をサポートする補助役として参加。イベント成功のために必要な裏方の業務を担当させることにより、社会性や団体行動を身につけるとともに、社会貢献の意義を経験させている。</p> <p>○他団体の受験（検）会場として校舎の提供</p> <p>従前のおり専修学校久留米ゼミナールおよび共生館国際福祉医療カレッジでは、社会人向けあるいは学生向けの資格取得や大学の入学試験のための会場として他団体へ校舎を提供している。今後も、日程等の条件が許す限り継続し、地域の一員として、また教育機関としてその役割を果たしたいと考えている。</p>
5段階評価	3

評価項目 12 国際交流

評価項目	国際交流
	<p>日本語学科では、久留米市の友好都市である中国安徽省合肥市にある高校や大学から修学旅行団を受け入れ交流を図っているほか、久留米市が主催するシーズンごとのイベントに積極的にかかわることで地元住民とのふれあいの場を持ち、異文化の橋渡しの役目を担っている。</p> <p>さらに久留米市の留学生観光サポーター制度の登録認定を受けており、市内で開催されるイベントにおける外国人旅行者などへの通訳・ガイドを担当したり、Facebookといった学生自身のSNSサイトで久留米市の魅力を広報、発信するなど、同市の国際交流に一定の役割を果たしている。</p>
5段階評価	4

財務

総括

昭和52年に学校法人として認可を受け、今日までの38年間、大学受験予備校（久留米校、佐賀校）、医療福祉の専門学校、単位制・通信制高校クラーク記念国際高等学校久留米キャンパス、日本語学科（久留米校、佐賀校）を開設。医療福祉専門学校の協力施設でもある介護施設（つつじ苑）の開所と、グループ力を結集しての教育の充実に努めてきた。

財務情報の公開については、別紙参照。